

碩 心

社団法人 日本詩吟学院 岳風会 認可
 神奈川 碩心 会 発行

10年 逗葉大 (合)	3月現在 地区 地区 地区 計	会員数 140名 211名 33名 384名	10年 発行 加編 中	3月 藤 村	(308号) 者 相 者 愛
-------------------	-----------------------------	------------------------------------	----------------------	--------------	----------------------------

行事予定

○県本部・青少年育成の日

日時・3月29日(日)

※詳細は「碩心」2月号に掲載

○県本部・総伝会総会

日時・4月25日(土)1時受付、2時開催

会場・平塚農業会館

申し込・3月末日迄に碩心会各地区長へ

碩心会 常任理事会

2月16日(月)6時30分より、六代御前社務所

に於てひらかれ、主な議題は左記の通り。

(80才以上高段者審査講習会)

県本部高段者審査は、従来二月の厳寒期に行なわれてきましたが、今後高齢者への配慮から、80才以上は各会で行う事になりました。

それに付、碩心会としては、審査前に該当者の講習会を行うことになり、七月頃の日曜日を予定。詳細はいずれお知らせします。

(碩心会皆伝会)

5月10日(日)午前10時より、逗子図書館ホール3Fで行なう。申し込みは3月24日(火)迄に各地区長方へ。会費千五百円を添えて。

(碩心会審査会に応援参加を)

3月8日、逗子図書館ホールに於て行なわれます。従来は受審者のみ参加でしたが、今回から、受審者以外の方も審査を見学することができるとなりました。自分の勉強を兼ね、多数応援参加を。

〔全国大会コンクールの

神奈川地区予選会〕

日時・5月17日(土)

会場・金沢公会堂

※碩心会から予選会に参加は左記の通り

合吟4チーム(10人一組)

連吟2チーム(3人一組)

入賞すると北海道札幌で行なわれる全国大会に参加となります。(除総伝)

(合吟コンクール課題吟)

(1)晩秋舟行 $1/27$ (2)北海道巡遊中作 $2/50$

(3)児に示す $2/82$ (4)楠公子に別るの図 $2/13$

(5)天門山を望む $2/75$ (6)菊花 $5/83$

(連吟コンクール課題吟)

(1)富士山 $3/28$ (2)桜花行 $3/32$

(3)左遷せられて藍関に至り姪孫湘に示す $1/12$

(4)藤王閣 $3/74$ (5)梅花 $3/88$

(6)成陽城の東樓 $1/83$

段・伝位履修年限

段位	雅号	履修年限
初段		入会又は前位受証後六ヶ月以上
二段		初段受証後六ヶ月以上
初伝	泉号	二段受証後六ヶ月以上
三段		初伝受証後六ヶ月以上
四段		三段受証後六ヶ月以上
中伝	山号	四段受証後一ヶ月以上
五段		中伝受証後一ヶ月以上
六段		五段受証後一ヶ月以上
奥伝	風号	六段受証後二ヶ月以上
七段		奥伝受証後二ヶ月以上
八段		七段受証後二ヶ月以上
皆伝	下號号	八段受証後三ヶ月以上
九段		皆伝受証後三ヶ月以上
十段		九段受証後三ヶ月以上
総伝	上號号	十段受証後四ヶ月以上

右の表にもとづいて審査が行なわれます。なお「総伝」については（本学院の運営、指導、普及向上に功績を積み、最高伝位所持者に相応せる人格を有するもの）とあります。皆伝以上の審査は異本部で行なわれます。審査にむけ勉強、受審して下さい。

許 証 料		(単位・円)	
種 別	許 証 料	消 費 税	合 計
少年少女 級二四高 位段段 初三五 校	5000 1,000 1,500 一般の半額	1000 200 230 一般の半額	5100 1,200 1,530 一般の半額
一 般	1,000 2,000 3,000 5,000 10,000 1200 230	200 400 600 1000 2000 240 60	1,200 2,400 3,600 6,000 12,000 1,230 290
師範位 準師止上 席 師 師	10,000 20,000 30,000 50,000	2000 4000 6000 1,000	12,000 24,000 36,000 51,000

(平成9年4月1日より)

日本詩吟学院 岳風会

歳時記

(菜種梅雨)

三月中旬から四月上旬にかけて、西日本では雨の日が多くなり、梅雨期そっくりの気圧配置となつて、絹糸のような細かい雨が降り続くことが多い。強い雨が降ることは少ないが、この時期に咲く菜の花にちなんで、このような優雅な名前がついたといわれている。またこの時期は、雨が降らなくても湿気の多い日の夜に月が出ると、何とも情感あふれるおぼろ月となる。

(彼 岸)

春分と秋分を中日として、前後三日間ずつ合わせて七日間を彼岸という。年によって日付が違い、春の彼岸は3月2日ごろ、秋の彼岸は9月23日ごろになる。彼岸というのは、梵語の波羅密多(はらみた)、即ち煩惱の此岸(しがん)を離れて涅槃(ねはん)の世界に達するという意味。彼岸の中日は太陽が真西に没する日なので、西方浄土の伝説と結びついて先祖供養の日とされている。

「日本の年中行事」

金園社より

皆伝審査を受けて

堀内D 栗山彩風

梅見月の十五日、平塚農業会館に於て、皆伝の審査を受けさせていただきました。前日先生から、自信を持つていただきたしやいと励まされて、少しはその気になって、車窓からうつつすらと白く積もった雪を眺めながら、平塚に着きました。

受付も、一階会場も、審査を受ける方達であふれんばかり……。開会式にはじまって、係りの先生から注意事項を聞いた後、受審番号と名前を読みあげられて審査室へ案内されたが、その頃から緊張が極度に高まり、平常心も自信も失ない、大海の中の、笹舟の如きありさまになりましたが、とにかく終り、ほっといたしました。

試験はどうも苦手です。でも一つの関門を通り抜けたあとの清々しさが、何物にも替えがたい気持ちにするのでしょうか。人間生きていく中で、時折り緊張するのも、若くいられる条件かも知れません。

これから、家庭的な雰囲気の中で、気の

あつた吟友共々勉強させていただきました、次の試験の時は傘寿になります。もう一度挑戦してみようかな？なんて考えております。

平常心で審査が受けられるようになるのは、普段の稽古が大切だということを、身に染みて感じた雪の一日でした。

思い出になる十段審査の日

沼間 祐野 孝岳

2月22日、平塚農業会館に於て、高段者審査会が行なわれ、十段を受審させていただきました。偶々平成十年のこの日は、記念すべき平和の祭典、長野オリンピック開会式の日で、同じその日に審査を受けることができましたのは、よき思い出となり光栄に思っています。

これまで御指導下さった諸先生、吟友の皆様のお陰と心より感謝申しあげ、これからも体に気をつけ、一日一日を大切に、吟道を心の友として、精進してゆきたいと思えます。

晴れてよし 曇りてもよし富士の山

もとの姿は かはらざりけり

富士を仰ぎ、吟道の益々の発展を祈念しております。

初孫桃節句

松和 宇都宮 徳岳

祭 雛 供 菓 沸 飲 娯

孫 只 無 心 不 識 愉

醉 興 歌 吟 君 勿 笑

古 来 佳 客 許 斯 愚

雛を祭り菓を供えて飲娯を沸かす
孫は只無心にして愉しみを識らず
酔うて歌吟を興ず君笑うこと勿れ
古来佳客は斯の愚を許す

今日は孫の初節句なので雛様を祭り、菱餅あられをお供えして、よろこびと楽しみを沸かせます。孫は只何の欲もなくその楽しみもわからず唯笑顔で浮かべている。酒がまわって、歌や吟に興ずることを君は笑わないでくれ。昔から粹な理解ある客は、この様な馬鹿げたことも大めに見てくれる。

逝きし吟友中村光風さんへ

矢嶋 岳悦

1月25日、県本部初理事会から帰宅して貴女の訃報を聞き、急いで自宅へ伺いました。貴女はきれいに化粧され、やつれもしない美しい顔で安置されていました。涙がとめどなく流れ、十年もの長い間、我が家の教室へ通ってこられ、仲よく詩を吟じ、世間話にも打ち興じた日々のことが思い出されました。又コンクールにもよく参加して下さい、暑い夏、寒い冬、よく練習に通ってくれました。「一日も休まなかった」と笑って話され、逗子、一色の吟友とも、よくおつきあい下さいました。ありがとうございます。

六十余年の一生は、短かく、儂なく、貴女もさぞかし無念のことでしょう。私達吟友も残念でなりません。家を守り、夫に従い、子を慈しみ、近隣に和し、友を愛した貴女を尊敬し、心からご冥福を祈ります。

亡き吟友を偲んで

堀内・F 葉山 寿風

余命短かいとのことをそれとなく聞いてはおりましたが、梅の咲くまで、いや桜の頃まではと、教室一同、祈るような気持ちで過した日々でしたのに、一月二十五日、中村光風さんの訃報を知りました。吟友として十年、机を共にし、文化祭、温習会等の練習に励み、教室仲間での旅行も、共に楽しんで仲でした。中村さんは、葉山生れの、葉山育ちで、多勢の友達に恵まれ、又、家族が心を一つに、病魔と戦ってこられました。64才の若さでこの世を去り、まだまだやり残したことが多かったのではと思われ、悔まれてなりません。亡くなる二日前、友から千羽鶴を折りましょうとお誘いをうけ、祈るような気持ちで折りあげましたのに、願ひもむなく、旅立つてしまわれました。中村さんの力強い吟が耳に残り、思い出されます。

なき人を ついの別れと弔えど

こころは消えず ありし面影

(内柴御風作)

六代御前の墓

碩心会で、理事会、指導者講習会等々、よく利用させていただく身近な六代御前社務所について、あらためて歴史をふり返ってみましょう。社務所の左側山裾に墓があり、手前の石碑は画家の中村岳陵の筆で、奥の大槻の根元にあるのが古くからある六代御前の墓碑である。

六代御前は三位中将平維盛の嫡男で、文治元年北条時政に囚えられたが、文覚上人に助けられ文覚の弟子となった。しかしその後文覚が謀叛の罪で佐渡に流されたので、六代も再び捕えられ、田越川畔で処刑された。後世六代御前の死を弔うために、人々はこの田越川を御最後川と呼ぶようになったという。

(入 会)

488 小田桐妙子 逗子市小坪六一九一五

(悠 吟) 〇四六七―二五―三六三二

(退 会)

94 杉本恵岳(桜山) 288 中村光風(死)(堀内・F)